

なるほど投資講座

外貨運用と聞くと、まず外貨預金が思い浮かぶ読者は多いのではないだろうか。外貨預金とは文字通り、米国のドルや欧州のユーロといった外国の通貨で預金することです。前回すでに述べたように、基本的なしくみは国内の銀行預金とほぼ同じです。米国に旅行に行った際、現地の銀行にドルを預けた」とイメージすると、分かりやすいかもしれません。

外貨預金の魅力の一つは利率です。利率は経済情勢や政策などによって国ごとに異なります。ユーロのように預金金利の低い通貨もありますが、総じて国内より利率が高くなっています。

例えば、ある銀行に1万米ドルを1カ月定期預金で預けた場合の表面利率は0・55%です。歴史的な低金利状態にある日本では、この水準の利率

初めての外貨運用 ②

預金、国内より高い表面利率

はまず期待できません。米国や欧州などの先進国だけでなく、トルコのリラや南アフリカのランドなど新興国の通貨で預金することもできます。外国の通貨で預金するといっても、必ずしも海外に出向く必要はありません。国内の金融機関が取り扱っているからです。日本円で預金するのと同様に窓口などで手続きできるので、外国語が話せなく

さまざまな通貨で預金できる
(単位%、1カ月定期預金、1万通貨単位以上。—は取り扱いなし)

	A銀行	B銀行	C銀行
リラ (トルコ)	7.000	—	—
ランド (南アフリカ)	2.500	5.000	—
ドル (オーストラリア)	1.600	1.200	0.600
ドル (米国)	0.550	0.300	0.500
ユーロ (欧州)	—	0.001	0.301
円 (日本)	0.080	0.020	0.010

(注) 2月28日時点、キャンペーンは含まず。おカネ学調べ

でも、もちろん大丈夫です。普通預金か定期預金かといった種類や取り扱う通貨は金融機関によって違いはありますが、日本円の場合はどこに預けても利率に大きな差はありませんが、外貨預金では利率も金融機関ごとに大きく異なるケースが多いようです。表面利率に何倍もの違いが出る通貨もあります。外貨預金で最も注意すべきなのは、元本割れの可能性があることです。日本円の預金とは異なり途中解約による違約金が発生するケースがあるほか、手数料がかかるためです。こうしたリスクの詳細は回を改めて説明します。(RIA JAPAN代表 安東隆司)

なるほど投資講座

海外の金融商品への投資は、資産形成の有力な選択肢の一つです。外貨運用に詳しいRIA JAPAN(おカネ学)代表の安東隆司さんに、外貨運用の勘所について解説してもらいます。

◇ 外貨運用とは、ドルやユーロといった円以外の通貨建ての預金や金融商品に投資することです。通貨が異なる以外、基本的なしくみは国内と大きく変わらないと考えて問題ありません。

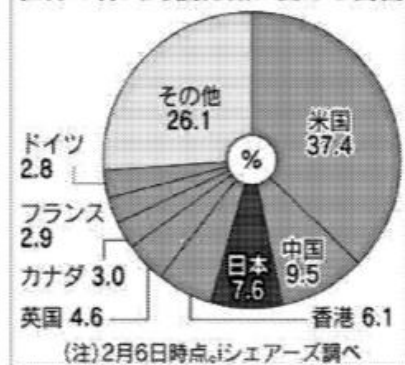
外貨運用の魅力はいくつかあります。最大の特徴は流動性の高さです。流動性とは、換金のしやすさや取引量の多さのことを指します。

特にアメリカドル(米ドル)は流動性の面で有利です。米ドルは基軸通貨であり、世界中の投資家が利用するため市場参加者も多く、取引量が多

初めての外貨運用 ①

流動性が魅力、選択肢も豊富

世界の株式時価総額に占める割合



いのです。市場参加者の多さは、選択肢の多さにもつながっています。新興国や日本の株価指数に投資する金融商品であっても、米ドル建てで作られているものがあるからです。

想定利回りやリスク許容度の大きさなど、投資家のニーズに合わせて商品を選ぶこともできます。例えば、金利が歴史的な低水準の日本の10年物国債の利回りは0・1%未満ですが、米国債は2%を超えるものがあります。

筆者が外貨運用を勧める理由は、グローバル経済への投資の必要性です。世界の株式時価総額に占める日本株の割合は1割未満であり、いくら円が自国通貨といっても、残り9割以上を占める海外資産に投資しないのは不自然ではないでしょうか。

金融庁によれば、日本の家計金融資産の運用リターンは20年間で1・15倍なのに対し、米国は2・32倍だそうです。ある程度リスクを取り外貨で投資する必要性は高そうです。

掲載日 2017/3/1 日本経済新聞 夕刊 / 掲載日 2017/2/28 日本経済新聞 夕刊

©日本経済新聞社 無断掲載を禁じます。

なるほど投資講座

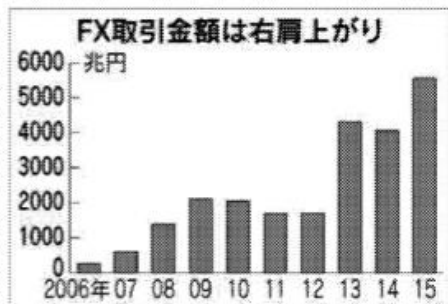
「ミセス・ワタナベ」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。特定の個人のことではなく、外国為替取引をする日本の個人投資家を指す総称です。日本人に多いワタナベという名字の印象から、日本の個人投資家「ミセス・ワタナベ」という表現となったとの説があります。この言葉は世界中で認知されています。彼らが存在感を発揮しているのが外国為替証拠金（FX）取引です。

FXはForeign（外国の）Exchange（両替・為替）の略です。取引所取引と店頭取引の2種類があり、取引金額は増加傾向にあります。

FXには投資家にとって便利な特徴がいくつかあります。「スプレッド」と呼ばれる、売値と買値の差が小さいことはそのひとつです。米ド

初めての外貨運用 ④

FX、少ない元手で取引可能



ルの場合、銀行窓口などでは2円程度開きがありますが、FXでは0・3銭程度しかなく、コストの安さは桁違いです。売りから取引に入れることも大きな特徴です。下がる予想した通貨をあらかじめ売って置いて、実際に下落した後で買い戻せば利益を得られます。

「スワップポイント」という金利の差額相当分を受け取れるといった特徴があります。最大の特徴は、証拠金と呼ばれる担保を業者に預けることで、その何倍もの金額を取引できることです。これを「レバレッジ（テコ）効果」といいます。例えばレバレッジが25倍なら、証拠金が4万円あれば100万円分の取引が可能です。

FXは便利な反面、リスクの大きさを理解することが極めて重要です。レバレッジの大きさが為替相場動向によっては損失額も大きくなるからです。FX取引をしたまま旅行に出るなど、すぐに利益確定や損切りができない状況は危険でしょう。外貨預金などとは異なり、長期投資に適しているともいえません。（RIA JAPAN代表 安東隆司）

なるほど投資講座

スマートフォンを扱うアプリなど、外国企業の株式や債券に投資したいと考える読者も多いかもしれません。しかし、国内の証券取引所に上場する外国企業は多くありません。外国企業に直接投資するには日本企業とは違ったアプローチが必要になります。どうすれば手軽に海外企業に投資できるのでしょうか。投資信託（投信）を買う方法があります。

初めての外貨運用 ③

外国企業への投資、ETFが手軽

米国は国内より投信のコストが安い
(純資産額上位5銘柄の平均)

	規模 (純資産)	販売 手数料	信託報酬 (年率)	収益率 (年率)
日本	1.1兆円	3.20%	1.53%	▲0.11%
米国	22.6兆円	0.59%	0.28%	5.20%

(注)金融庁「金融レポート」から抜粋。2016年3月末基準。販売手数料、信託報酬は税抜き、収益率は過去10年平均、▲はマイナス

額で分散投資できるのも投信の利点の一つです。米国は投信で資産運用する際のコストが安い国として知られています。金融庁が2016年9月に公表した「金融レポート」によれば、純資産の大きい上位5つの米国の投信は販売手数料と信託報酬がともに1%を大きく下回り、国内投信より大幅に低くなっています。結果として、過去

10年の収益率も日米で大きな開きが生じています。外国株や外国債券を対象とする投信は国内の多くの金融機関も取り扱っています。ただ、日本から海外投信に投資すると必ずしも低コストの利点が享受できるわけではないので、注意が必要です。上場している投信もあり、上場投資信託（ETF）といい、株式と同じように売買できます。海外資産に投資するETFは東証にも上場していますが、1回目の説明した流動性が乏しいのが現状です。コストや商品の多様さなども勘案し、海外に上場する米ドル建てのETFも選択肢に入れるのがいいでしょう。ネット証券を中心に、国内の金融機関経由で投資することもできます。（RIA JAPAN代表 安東隆司）

掲載日 2017/3/3 日本経済新聞 夕刊 / 掲載日 2017/3/2 日本経済新聞 夕刊

©日本経済新聞社 無断掲載を禁じます。

なるほど投資講座

突然ですが、問題です。利回り10%のトルコリラ債券と同3%の米ドル債券では、どちらの運用益が大きいでしょうか。

答えを導き出すカギは為替の両替コストです。具体的な数値で検証してみましょう。

為替レートは1トルコリラ＝30円、1ドル＝110円とし、為替の手数料が1トルコリラにつき片道2円、米ドルは同1円とします。この条件下で300万円投資し、1年間運用すると想定してみます。税金の影響は、ここでは無視します。

まず、トルコリラ債です。先に結論を言うと、元本を割り込んでしまいます。両替する際に手数料が2円加わるので両替レートは1リッあたり32円となり、300万円は10万リッではなく9万3750リッになります。1年後には10%増

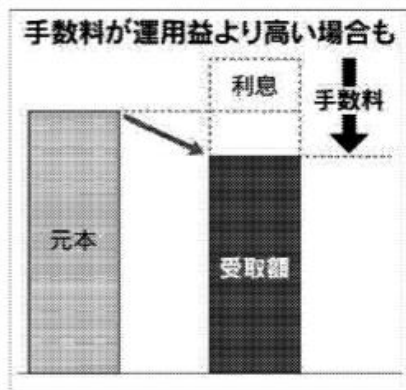
初めての外貨運用 ⑥

無視できない両替のコスト

え10万3125リッになります。が、再び円に両替する時には手数料が2円かかるので、レートは1リッあたり28円にしかなりません。返ってくるのは288万7500円です。

米ドル債はどうでしょうか。同じように計算すると、1年後には303万円強になります。為替手数料の影響はこれほど大きいのです。

手数料を考える際には、率に変換してみることをお勧めします。前出のトルコリラは



30円に対して2円で、手数料率は約6・7%。これが往復でかかるので、10%の利回りでは損をしてしまうのです。一方、米ドルは110円に対して1円なので、往復でも手数料率は2%以下に収まっています。

手数料に留意すべきなのは預金だけではありません。外国株式や海外の上場投資信託（ETF）の取引には売買手数料がかかります。証券会社によっては買った時と売った時それぞれ1%程度の手数料がかかることもあります。頻繁に売買するほどコストがかかりますので、中長期的な視点で慎重に銘柄を選ぶことが重要になります。

(RIA JAPAN代表 安東隆司)

なるほど投資講座

今週は外貨運用を始めるにあたっての留意点について解説します。

外貨運用で避けて通れないのが、為替変動のリスクです。表面利率の高さが外貨預金の魅力のひとつであることはすでに説明しましたが、たとえば高利回り通貨であっても、元本割れを起こす可能性があります。為替変動による損失が受取利息を上回るケースがあるからです。しかも、外貨預金は預金保険の対象外です。元本割れが起きても保護してもらえません。

為替レートは日々変動し、昨今では短期間で大きく変動する例も珍しくなくなってきました。例えば2016年1月4日のドル円相場は1ドル＝120円近辺でしたが、同じ年の8月19日には100円台まで円高が進みました。わずか8カ月弱で約20円、17%も

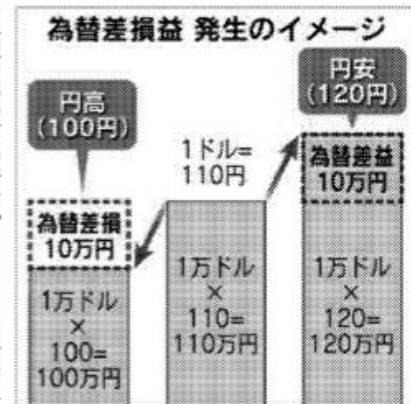
初めての外貨運用 ⑤

円高進めば元本割れリスクも

円高が進んだのです。為替の影響を具体的な例で見してみましょう。分かりやすくするため手数料などのコストは無視することにします。

1ドル＝110円の時に110万円を米ドル定期に預金したと仮定します。預けられるのは1万ドルです。

ここから為替水準が1ドル＝100円になったとします。円換算した預金額は1万ドル×100なので100万円。10万円減ってしまいます。減っ



た分の10万円を「為替差損」といいます。このように、円高になると損失が生じるのです。

米ドル定期の利率が0・5%だとすると利息は税引き前で5500円。新興国通貨並みの7%の利率で運用できても利息は7万7千円にしかならず元本を割ってしまいます。為替変動の影響の大きさが理解できると思います。

もちろん、円安になれば「為替差益」が生じます。さきほどの例で1ドル＝120円になれば、差益は10万円です。為替相場が円安方向に向かうとの予想をもとに、為替差益を狙うという選択もできるわけです。

(RIA JAPAN代表 安東隆司)

掲載日 2017/3/8 日本経済新聞 夕刊 / 掲載日 2017/3/7 日本経済新聞 夕刊

©日本経済新聞社 無断掲載を禁じます。

なるほど投資講座

所得を得たら税金を納める
――。外貨運用でもこの原則は変わりません。ただ、運用する資産によって税金の取り扱いが異なります。

外貨預金で得る可能性のある所得は、利息と為替差益に大別できます。国内にある金融機関本支店の口座の利息は源泉分離課税の対象で、投資家には税金が引かれた金額が戻る仕組みです。

一方、為替差益は雑所得として扱われ、総合課税の対象になります。差益が加わることで所得総額が増え、適用税率が上がってしまうこともあります。この場合、税負担が増えてしまいます。サラリーマンの雑所得が20万円以下なら確定申告が不要との制度がありますが、これは所得税の話です。住民税には適用されないので注意してください。為替差益はどうでしょう

初めての外貨運用 ⑦

住民税率上がるケースも

税金の取り扱い（概略）

	損失繰越	損益・内部通算
外貨預金	不可	×＝証券・債券、F X ○＝その他の雑所得
F X		×＝証券・債券 ○＝F Xなど
外貨債券 （特定公社債の場合）	可能 （翌年以後3年間）	○＝証券・債券 ×＝F X
海外株式・ETF		

（注）一般的な個人投資家の場合。おカネ学作成

年間繰り越せます。外貨預金に比べ投資家に有利な税制といえそうです。外国株や海外の上場投資信託（ETF）の税制は、基本的に国内のものと同じ仕組みです。損失繰り越しや国内の株式などの損益通算ができません。国内株との違いは、為替変動が影響することです。現地通貨ベースの価格が一切変動していても、円高になった場合には損失計上できる場合があります。

今回は税金についての概略をごく簡単に説明しました。外貨運用の場合は例外事項も多いため、実際に確定申告に臨む場合などは税理士など税務の専門家に相談することをお勧めします。

（RIA JAPAN代表 安東隆司）

なるほど投資講座

最後に、外貨運用を始めるにあたっての、筆者なりの心構えを述べたいと思います。

まず指摘したいのは「メリットとデメリットを正しく理解すること」の重要性です。金融商品のパンフレットを思い浮かべてください。表面利率の高さや税制優遇策など投資家に心地よい内容が大きな字で書かれている一方、元本を割り込む可能性といったリスクは小さな字で隅に添えられているだけ、という例が多々はないでしょうか。金融機関にとってはビジネスなのですから、利点を前面に押し出したくなるのは当然です。セルスートーク全てをつのみにしない姿勢が肝要です。

それには、投資家自身が知識レベルを高める必要があります。特に、販売業者が語りたがらない事項は、自ら情報収集しないとなかなか習熟す

初めての外貨運用 ⑧

世界経済への関心 成否のカギ

世界 リスクカレンダー

	イベント	可能性のあるリスク
3月	オランダ総選挙 米連邦債務上限の引き上げ期限	E U 離脱機運が上昇 信用不安の再燃
5月	フランス大統領選	ルペン氏勝利で右傾化
?	中国共産党大会 スコットランド国民投票	次期最高指導部が決定 E U 残留へ英国から独立

（注）おカネ学作成

ることができません。自分なりの相場観を磨くことも大切です。世界景気が回復（悪化）するのか、それに伴って為替や金利、株式相場がどう動くのかを予想するのは、外貨運用の第一歩です。新聞やテレビなどの情報に触れることはもちろん大切です

し、情報の質を見極める力も養わなければならないでしょう。「投資は自己責任」といわれますが、それは外貨運用にも当てはまります。

実際に投資してみると、今まで気にも留めなかったような報道が自分の投資に関連する情報の一部なのだと気付くことがあります。実際、米大統領などの各国首脳の発言や国際政治動向が、世界の相場を動かすことは多いのです。残念ながら、国内の金融商品の多くは低利回りです。定期預金利息が銀行ATMの手数料より少ないといったことも珍しくありません。世界中の投資家が外貨運用を活用し、収益を追求しています。この連載が読者の皆さんに少しでも役立つことを願います。

（RIA JAPAN代表 安東隆司）

＝この項おわり